

次期固体ロケットについて

- (1) 目的
- (2) 目標
- (3) 開発方針
- (4) 実施体制
- (5) その他
 - ・ システム選定及び基本設計要求
 - ・ 開発計画
 - ・ リスク管理

平成19年8月27日A改訂

平成19年8月7日

宇宙航空研究開発機構

宇宙基幹システム本部

固体ロケット研究チーム

森田 泰弘

ユーザ(小型衛星)のニーズ

■科学分野

- 小型衛星により、多様な特徴ある宇宙科学ミッションを迅速、高頻度、低コスト、短期、かつ、タイムリーに実現
- 軌道は低軌道500km円軌道、極軌道、長楕円軌道、月・惑星遷移軌道と多岐
- 機械環境条件の緩和を要望
- 宇宙理学委員会・宇宙工学委員会の下にワーキンググループが存在(厳正なピアレビューを経て精選)

■技術実証衛星

- 宇宙開発利用を支える技術基盤の強化・充実を図るため、小型衛星を活用した宇宙実証によりコンポーネント・部品レベルのそれぞれで基盤的な技術力の抜本的な強化を行うことを目的
- 軌道は低軌道、極軌道、長楕円軌道と多岐
- 機械環境条件については基幹ロケットと同レベルを要望
- 総合技術研究本部を中心としてミッション検討中

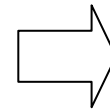
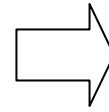
目的

小型衛星計画への対応

- ・衛星開発期間短縮、小型衛星による部品の事前実証
- ・短期間・高頻度の打上げ、効果的・効率的な成果創出

固体ロケットシステム技術の維持・向上

- ・M-Vロケットまで培ってきた我が国独自の特長ある技術の継承・発展



システム構成と運用を簡素化することで、信頼性が高く、低コストで、運用性の良いシステムの実現を目指す。

打上げシステム簡素化

信頼性向上

コスト低減

運用性向上